

慶應大阪シティキャンパス(KOCC) 夕学サテライト講座 (2015 年度後期) 受信スケジュール

KOCC「夕学サテライト講座」は、東京丸の内シティキャンパス(慶應 MCC)で行う定例講演会「夕学五十講」のうちの一部講演を、インターネット回線を通じてライブ中継により、リアルタイムで受講するものです。

2015/9/2(水) 11:00より申込受付開始(Web/Fax)

時間：18:30～20:30(開場 18:00) 会場：慶應大阪シティキャンパス(KOCC)
(11/10, 12/15 は、グランフロント大阪 北館9F-C 8階 カフェインルーム C05)

定員：90名(11/10, 12/15 2講演の定員は50名)

講座料：全15講演一括申込20,000円、個別申込1講演@1,500円

個別申込は、一度のお申込枚数5枚につき500円割引制度有。

* 下記は2015/8/21現在調整中の予定です。事情により講演者・日程等が変更となる場合がありますことをご了承ください。

1. 講演スケジュール(全15講演)		開催日・講師名・タイトル	主催：慶應学術事業会
10/2 川村 隆 ラストマンの生き方 講演60分、質疑応答60分の構成です。	11/2 清宮 克幸 有言実行	12/3 都倉 武之 他 戦後70年、『学生と戦争』を考える 対談形式で行います。	
10/14 為末 大 禅とハードル	11/10 宮本 雄二<定員50名> 習近平の中国 開催会場が異なります。	12/15 榎本 英剛 <定員50名> 自分も世界も幸せにする生き方 開催会場が異なります。	
10/16 坂下 玄哲 消費者行動とブランド・マネジメント	11/11 尾山 基 アシックスのグローバル戦略	12/17 前野 隆司 幸せの日本論 ～日本の個人と企業はいかにあるべきか～	
10/21 大竹 文雄 経済学的思考法	11/18 高田 礼人 ウイルスはどうやって生き残っているのか	1/14 春風亭 一之輔 落語のちから 落語一席を交えた90分と 質疑応答30分の構成です。	
10/30 西條 剛央 チームの力を活かす組織論 ～良い組織作りのための実践的視座～	11/26 野田 稔 組織人材から“社会人材”へ	1/26 三品 和広 高収益事業の創り方	

10月2日(金) <戦略と技術が拓く近未来>

川村 隆(かわむら たかし) 株式会社日立製作所 相談役
「ラストマンの生き方」 講演60分、質疑応答60分の構成です。

赤字に陥った巨大企業のトップに就任したのは69歳のグループ会社社長。経済界では経営陣の若返りが進む中で逆に注目されるが、覚悟を決めた決断と実行を重ねた結果、過去最高益を達成した。企業使命は「利益を創造し社会へ還元すること」と断言する川村氏が改革の軌跡と日立への思いを語る。

1939年北海道生まれ。東京大学工学部電気工学科卒業後、日立製作所入社。2015年3月期決算で過去最高の営業利益をたたき出した日立製作所。だが、これまでずっと順風満帆だったわけではない。川村氏は、日立製作所が7873億円の最終赤字を出した直後の2009年に執行役会長兼社長就任。テレビなどの赤字事業からの撤退といった大ナタを振るいながら、「社会イノベーション事業」の拡大という具体的な方向性を示し、日立再生を陣頭指揮した。最終的な責任を自分で取る覚悟を持って、物事をやり切る「ザ・ラストマン」として、今春出版した書籍も話題に。

10月14日(水) <気鋭の論客に聞く>

為末 大(ためすえ だい)
「禅とハードル」

競技に邁進した現役引退から3年。子供向けの体力向上・教育プログラムの開催、ブータン親善大使としての活動など多忙な日常の中で禅と出会い、禅師と会話を重ね自らの思考を深めてきた為末氏。選択肢と情報が氾濫する現代社会だからこそ、絞り込みと没頭が大切と説く。

1978年広島県生まれ。陸上トラック種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。シドニー、アテネ、北京と3度のオリンピックに出場し、2012年に25年間の現役生活から引退した。現在は、一般社団法人アスリートソサエティ、為末大学、Xiborgなどを通じて、スポーツ、社会、教育、研究に関する活動を幅広く行っている。2013年には禅僧・南直哉師との対談本『禅とハードル』を刊行。為末氏が南氏のほとんどの著書を愛読していたことをきっかけに、青森県・恐山で10時間もの対談が実現した。夕学講座二度目の登壇となる今回は、引退後の経験を踏まえてのお話を聴く。

10月16日(金) <信頼と共感の経営>

坂下 玄哲(さかした もとたか) 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 准教授
「消費者行動とブランド・マネジメント」

製品やサービスが多様化する今、企業のブランドマネジメントに対する悩みは尽きない。消費者行動論を専門とする坂下准教授が、拡散する消費者へのアプローチやブランド構築手法とその長所・短所を解説し、理論と実務の両面から問題解決への手がかりを示す。

1999年神戸大学経営学部卒業、2001年同大学大学院経営学研究科博士前期課程修了、2004年同後期課程修了。博士(商学)。上智大学経済学部経営学科専任講師を経て、2007年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。2013年ノースウエスタン大学ケロッグ経営大学院客員准教授。複雑化する経営環境において、どのようにすれば企業が安定的に成長するために欠かせない「強いブランド」の構築と管理ができるのか。専門家の坂下准教授に学ぶ。

10月21日(水) <気鋭の論客に聞く>

大竹 文雄(おおたけ ふみお) 大阪大学社会経済研究所 教授
「経済学的思考法」

低所得者対策に有効ではない税制に7割の人が賛成するのはなぜか。合理的のようであるが、実は直観的で間違った意思決定を行ってしまうのが人間。思考の癖を理解し、経済的合理性を意識することで仕事も家庭生活も変化する。大竹教授が直観に頼らない思考法を伝授する。

1961年京都府生まれ。京都大学経済学部卒。大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。大阪大学博士(経済学)。2001年5月より現職。専門は労働経済学、行動経済学。日本の所得格差の実態や原因を計量分析で実証的に迫った『日本の不平等』(日本経済新聞社、2005年)が日経・経済図書文化賞、サントリー学芸賞、エコノミスト賞を受賞。2008年には日本学士院賞を受賞。また、最近ではNHK Eテレ「オイコノミア」への出演や日本科学未来館の企画展「波瀾万丈!おかね道」の総合監修などと、幅広く活躍されている。

10月30日(金) <信頼と共感の経営>

西條 剛央(さいじょう たけお) 早稲田大学大学院商学研究科 MBA コース 客員准教授
「チームの力を活かす組織論~良い組織作りのための実践的視座~」

大震災後、SNSを活用し始動したボランティア活動。3000人以上が関わり3000もの避難所に物資供給を行う巨大組織を円滑運営できた理由とは。リーダーを務めた西條准教授が価値観や信念の対立解消に有効な構造主義の視点からよりよいチーム・組織作りへ向けて助言する。

1974年宮城県仙台市生まれ。早稲田大学人間科学部卒業、早稲田大学大学院人間科学研究科修了。博士(人間科学)。日本学術振興会特別研究員(DC/PD)を経て、2009年より早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻専任講師、2014年より現職。心理学と哲学が専門。「構造主義」という独自理論を創唱し、この理論を用いて東日本大震災の支援を開始した。「ふんばろう東日本支援プロジェクト」代表も務め、物資支援から重機免許取得といった自立支援まで50以上のプロジェクトからなる日本最大の総合支援組織に育てあげた。2014年に世界的なデジタルメディアのコンペティションである「Prix Ars Electronica」のコミュニティ部門において、最優秀賞にあたるゴールド・ニカを日本人として初受賞。ベストチームオブザイヤー2014受賞。

11月2日(月) <信頼と共感の経営>

清宮 克幸(きよみや かつゆき) ラグビートップリーグ・ヤマハ発動機ジュビロ 監督
「有言実行」

アジア初のW杯開催決定で注目を浴びるラグビー。経営環境の悪化で存続の危機を迎えトップリーグ入替戦も経験したチームが4年で日本一になった。具体的な数字やデータを示し言葉で正しいプレーの再現性を高める。選手の心に火をつけ続けた清宮監督が優勝への軌跡を語る。

1967年大阪府生まれ。大阪府立茨田高校でラグビーを始め、3年時に花園の全国大会に出場し、高校日本代表にも選出される。早稲田大学では、1年からレギュラーになり、2年時に日本選手権優勝。4年時には主将として大学選手権優勝に貢献。サントリー(株)入社とともにサントリーラグビー部に入部、1992~94年には主将を務めるなど中心選手として活躍した。2001年に現役引退後、早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任。就任後5年連続で関東大学対抗戦全勝優勝、大学選手権も3度制覇し、早稲田ラグビー復活の原動力となる。その後、サントリーラグビー部監督として復帰し、サントリーを初のトップリーグチャンピオンへと導く。現在監督を務めるヤマハ発動機ジュビロは、リーマンショックにより廃部宣告されていたにもかかわらず、4年で日本一となった。今夏、甲子園で活躍した早実・清宮幸太郎選手の実父。

11月10日(火) <気鋭の論客に聞く> [定員:50名]、[会場:GFO北館7F-C 8階 カンファレンスルームC05]

宮本 雄二(みやもと ゆうじ) 宮本アジア研究所 代表、元駐中国特命全権大使
「習近平の中国」

反腐敗闘争、領海問題、バブル崩壊リスクなど課題山積の習近平政権。内情や日中外交の舞台裏に詳しい宮本元

大使が独自の視点から解説する。また、日中双方が中途半端なイメージに囚われずに客観的かつバランスのとれた視点で相手を見ることが平和共存に繋がると説く。

1946年福岡県生まれ。京都大学法学部卒業後、外務省入省。以降3度にわたりアジア局中国課に籍を置くとともに、北京の在中華人民共和国日本国大使館駐在は3回を数える。中国課長、ミャンマー大使、沖縄担当大使などを歴任。2006年～2010年まで中国大使。退官後は、宮本アジア研究所代表、日中友好会館副会長、日本日中関係学会会長を務め、『これから、中国とどう付き合うか』『習近平の中国』などの執筆活動も行う。「習近平を最もよく知る外交官」と言われる。

11月11日(水) <戦略と技術が拓く近未来>

尾山 基(おやま もとい) 株式会社アシックス 代表取締役社長 CEO
「アシックスのグローバル戦略」

世界3位の競合先を射程内に捉えたアシックス。欧米でのランニング人気、ヨーロッパでのレトロ回帰を追い風にブランドを確立して売上を伸ばし、東京五輪ゴールドパートナーとして更なる飛躍をめざす。尾山社長が示す事業変革事例と成長戦略に海外ビジネスへのヒントを得たい。

1951年石川県生まれ。大阪市立大学商学部卒業後、日商岩井(現双日)でナイキ・ジャパンの立ち上げに携わった後、アシックスに入社。マーケティング統括部長、アシックスヨーロッパB.V.代表取締役社長などを歴任し、2008年代表取締役社長就任。2011年から現職。アシックスは技術力でオリンピックでの数々の金メダリストを支えてきた日本一のスポーツメーカーであるだけでなく、2000年から15年間の海外売上高比率が約2倍となり、現在は70%以上に達するなど、急速にグローバル化が進んでいる。ヨーロッパ駐在時代の経験を交えながらのお話に期待したい。

11月18日(水) <見えない世界に挑む>

高田 礼人(たかだ あやと) 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 教授
「ウイルスはどうやって生き残っているのか」

世界を震撼させる人獣共通感染症は、自然の中で静かに暮らしていたウイルスを引きずり出すことから発生する。エボラ出血熱研究の第一人者であり、診断法や治療薬開発に向けて世界中を飛び回り自然宿主や存続メカニズム解明に挑み続ける高田教授が、ウイルスの生態や向き合い方を語る。

1968年東京都生まれ。北海道大学獣医学部卒業。同大獣医学研究科博士課程修了。博士(獣医学)。同大獣医学研究科助手、東京大学医科学研究所助手を経て、2005年より現職。2007年よりザンビア大学獣医学部客員教授、2009年より米NIHロッキーマウンテン研究所の客員研究員に。専門は獣医学、ウイルス学。インフルエンザウイルスやエボラ出血熱等の動物を介して人に感染するウイルスの研究を行い、感染経路の解明から治療薬の開発までの実績を残している。特にエボラウイルスにおいては、先行研究もほとんどない中、世界で初めて感染メカニズムを解明した世界的第一人者である。

11月26日(木) <気鋭の論客に聞く>

野田 稔(のだ みのる) 一般社団法人 社会人材学舎 塾長、明治大学大学院グローバルビジネス研究科 教授
「組織人材から”社会人材”へ」

バブル入社組の処遇に頭を悩ます大企業に、人材不足に悩む地方&中小企業。人口減少と超高齢化が進む中で生産人口確保も重要だ。個人と企業が高めあうことで人的資源の循環が可能となり社会全体での終身雇用も実現する。野田塾長の新たな活動がよりよい社会作りへのヒントを与える。

1957年生まれ。一橋大学大学院商学研究科修士課程修了。野村総合研究所経営コンサルティング部長、(株)リクルート新規事業担当フェロー、多摩大学経営情報学部教授を経て現職。組織・人事領域を中心に、ベンチャー立ち上げ支援を含め、幅広いテーマで実践的なコンサルティング活動を行う。2013年9月、日本の人材教育レベルを高めビジネスパーソン能力発揮を支援する(一社)社会人材学舎を設立し、2015年6月塾長に就任。また、NHK「経済ワイドビジョンe」(2009年4月～2010年3月)、同「Biz スポワイド」(2010年4月～2011年3月)、NHK Eテレ「仕事学のすすめ」(2011年4月～2013年3月)、などメディアでも活躍。

12月3日(木) <文化と歴史で世界を読み解く>

都倉 武之(とくら たけゆき) 慶應義塾福澤研究センター 准教授
特攻を経験された方を含む元学徒兵の方々
「戦後70年、『学生と戦争』を考える」 対談形式で行います。

70年前、日本の学生達は陸海軍、勤労動員、疎開と散り散りになり特攻や玉砕戦、シベリア抑留等を経験することになった。慶應義塾主催「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクトを主幹した都倉准教授が、当時の学生の生きた姿を繋ぐ。会場全体で「あの戦争は何だったのか」を考えたい。

1979年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。同大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了。武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部助手、同大学国際コミュニケーション学部専任講師、慶應義塾福澤研究センター専任講師を経て、2011年10月より現職。専攻は近代日本政治史・政治思想史、メディア史。2013年8月より「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジ

エクトを担当。「今後、戦争のことを具体的に検証するためには今、史料を集めておかないと何もわからなくなる。」という危機感から、学徒出陣などの基礎資料を収集、データを整備し、展覧会やインターネットで積極的に公開する活動をしている。

12月15日(火) <見えない世界に挑む> [定員:50名]、[会場:GF0 北館9F-C 8階 カンファレンス-RM C05]

榎本 英剛(えのもと ひでたけ) よく生きる研究所 代表

「自分も世界も幸せにする生き方」

自分が置かれている状況に関わらず「希望」は選択できる。サラリーマンやコーチ経験、エコビレッジ移住に世界的市民運動の日本法人設立など様々な体験を経て現在に至る榎本氏。政治や経済、自然破壊など多様な問題の中にあって、自分と世界を幸せにする生き方を紹介する。

兵庫県宝塚市生まれ。一橋大学法学部を卒業後、(株)リクルート入社。人事・営業・企画・研修開発などの業務を経験し、同社を退職後、米国サンフランシスコにあるCIIS(California Institute of Integral Studies)に留学。組織開発・変容学を専攻し修士号を取得。留学中、コアアクティブ・コーチングに出会い、日本人として初めてCPC(Certified Professional Co-Active Coach)の資格を取得。帰国後、CTI ジャパンを設立し、コーチングを本格的に日本へ普及する活動に取り組む。2003年末に同社の代表を退き、英国北部スコットランドに家族とともに移住。帰国後は、英国在住中に会ったトランジション・タウンおよびチェンジ・ザ・ドリームという2つの世界的な市民運動を日本に広げるべく、それぞれトランジション・ジャパン、セブン・ジェネレーションズという2つのNPO法人を設立。2012年には、これまでの活動を統合すべく、「よく生きる研究所」を設立し、現在に至る。

12月17日(木) <文化と歴史で世界を読み解く>

前野 隆司(まえの たかし) 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授

「幸せの日本論 日本の個人と企業はいかにあるべきか」

短所と長所は表裏一体。日本人の“短所”も、実は合理性や個人主義が行き過ぎた世界が学ぶべき点でもある。全体が調和し共生する日本型システムが広がれば誰もが幸せになれるのではないかと。これまでも脳と心、幸福の関係を解明してきた前野教授が新・幸福論を提唱する。

1962年山口市生まれ。東京工業大学工学部機械工学科卒業。同大学理工学研究科機械工学専攻修士課程修了後、キヤノン(株)入社。慶應義塾大学理工学部専任講師、同助教授、同教授を経て、2008年より現職。この間、1990~1992年カリフォルニア大学パークレー校 Visiting Industrial Fellow、2001年ハーバード大学 Visiting Professor。ロボットに、人間と同等の機能をもたせるようプログラミングする人工知能について研究を進める途上で、意識に関する「受動意識仮説」を見出した。ヒューマンインタフェースのデザインから、ロボットのデザイン、教育のデザイン、地域社会のデザイン、ビジネスのデザイン、価値のデザイン、幸福な人生のデザインまで、様々なシステムデザイン・マネジメント研究を行なっている。

2016年1月14日(木) <日本のソフトパワー>

春風亭 一之輔(しゅんぷうてい いちのすけ) 落語家

「落語のちから」 落語一席を交えた90分と質疑応答30分の構成です。

演じ手の話と聴衆の想像力で物語の世界が広がるシンプルな芸能である“落語”。高校生の時にふらりと入った寄席で落語に魅せられ、入門後11年で先輩噺家21人を抜いて真打へ駆け上った一之輔匠師が、落語の魅力語り一席を披露する。想像力をも刺激する一石二鳥の時間を愉しみたい。

1978年千葉県野田市生まれ。埼玉県春日部高校在学中、自ら「落語研究会」を起し部長として活躍し、進学した日本大学芸術学部でも「落研」に所属。卒業後、春風亭一朝に入門。若手噺家としては秀逸な芸で人気が高まり、2012年3月、異例の21人抜きで真打に昇進。得意ネタは「不動坊」「茶の湯」「鈴ヶ森」「初天神」など。JFN ラジオのトーク番組『SUNDAY FLICKERS』でメインパーソナリティも務めている。

1月26日(火) <戦略と技術が拓く近未来>

三品 和広(みしな かずひろ) 神戸大学大学院経営学研究科 教授

「高収益事業の創り方」

経営と執行を分離し、経営者人材の計画的な育成をしなければ、長期的な高収益化は実現できない。数年にわたり成功と失敗、合計250超という膨大なケースの分析を行い、多様な戦略パターンとバリエーションを導き出してきた三品教授が会場に新たな視点と気づきを与える。

一橋大学商学部卒業。同大学大学院商学研究科修士課程修了。ハーバード大学文理大学院博士課程修了。ハーバード大学ビジネススクール助教授、北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術調査センター助教授、同大学知識科学研究科助教授、神戸大学大学院経営学研究科助教授を経て、2004年より現職。「事業の長期収益を決める主因は何なのか」をテーマに研究を進める。2015年7月刊行の『経営戦略の実戦1：高収益事業の創り方』では、東名阪一部上場企業と東証二部上場企業を合わせた1805社を対象に調査をした。週刊東洋経済の巻頭コラム「経済を見る眼」の執筆陣にも加わっている。